

2011年6月23日(木)が初代理事長を務めさせて24日(金)、『第2回アジア慢性期医療学会』が韓国・釜山(会場: BEXCO)で開催されたシルバーエキス(博覧会)で釜山市長など韓国の要職の方々と共にタイ、マレーシア、シンガポール、スロバキア、エジプト9か国約710名の参加者及び、特別講演4題、シンポジウム13題、一般発表42題、ポスター28題を集め3か国同時通訳で盛大に開催されました。今大会は昨年京都で開催した第1回大会に続き、日本と同様に少子・高齢化が進みつつあり、高齢化社会に対し検討を進めている韓国で開催されることになったもので、大韓老人療養病院協会のキム・ドクジン会長が会長である大韓老人医療福祉複合体協会と日本慢性期医療学会の合意で設立された「アジア慢性期医療学会」が主催しました。私・中村哲也

が初代理事長を務めさせていたことになり、同時に開催されたシルバーエキス(博覧会)で釜山市長など韓国の要職の方々と共にタイ、マレーシア、シンガポール、スロバキア、エジプト9か国約710名の参加者及び、特別講演4題、シンポジウム13題、一般発表42題、ポスター28題を集め3か国同時通訳で盛大に開催されました。今大会は昨年京都で開催した第1回大会に続き、日本と同様に少子・高齢化が進みつつあり、高齢化社会に対し検討を進めている韓国で開催されることになったもので、大韓老人療養病院協会のキム・ドクジン会長が会長である大韓老人医療福祉複合体協会と日本慢性期医療学会の合意で設立された「アジア慢性期医療学会」が主催しました。私・中村哲也



理事長 中村 哲也

## 第2回アジア慢性期医療学会を終えて

IMSグループ板橋中央総合病院

「世界的に高齢化社会に伴う高齢化人口に対し様々な課題と医療技術及び管理が必要である。高齢者を医学と経営の側面から情報を共有しよう」と述べ、キム会長が「高齢化は全世界的問題であり、その中心は慢性期医療が抱えていることになり、アジアとして医療介入の施設提供の整備には国や人々の考えに理解が必要であり、このような学会を通じてお互いに成長し啓蒙していくことが必要」とお話しされました。

特別講演で発表の場を借り、脳卒中、医療の質、栄養、介護などのカテゴリーで合計42題の発表と共に活発な質疑がなされていました。

「世界的に高齢化社会に伴う高齢化人口に対し様々な課題と医療技術及び管理が必要である。高齢者を医学と経営の側面から情報を共有しよう」と述べ、キム会長が「高齢化は全世界的問題であり、その中心は慢性期医療が抱えていることになり、アジアとして医療介入の施設提供の整備には国や人々の考えに理解が必要であり、このような学会を通じてお互いに成長し啓蒙していくことが必要」とお話しされました。

「世界的に高齢化社会に伴う高齢化人口に対し様々な課題と医療技術及び管理が必要である。高齢者を医学と経営の側面から情報を共有しよう」と述べ、キム会長が「高齢化は全世界的問題であり、その中心は慢性期医療が抱えていることになり、アジアとして医療介入の施設提供の整備には国や人々の考えに理解が必要であり、このような学会を通じてお互いに成長し啓蒙していくことが必要」とお話しされました。



同時開催のシルバーエキスポでのテープカット(左からソン氏、中村氏、武久氏)